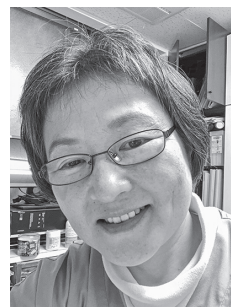


老健施設管理医師の醸造の仕方 30年仕込みVer.

新しい酒は、新しい革袋に入れよ

松永慶子^{〔まつなが・けいこ〕}

老人保健施設エルダリーガーデン(徳島県)
施設長



[第1回]

当施設は、徳島市旧市街の西端、眉山の裾野を鮎喰川が流れる付近の、国道192号線沿いにある。少子高齢化は進むが交通至便の場所だ。1972年、医療法人徳松会松永整形外科として設立され、1991年、老健施設エルダリーガーデン(以下、エルダリー)52床を併設した。

「新しい酒は、新しい革袋に入れよ」。1991年、ネフロゼにて胸水貯留、緊急入院した父を助けたい一心で、29歳の私が老健施設管理医師(以下、施設長)となったとき、誰かからいただいた言葉だ。新約聖書『マタイによる福音書』第9章に由来する。

エルダリーが30周年を迎え、自分が59歳になった昨年頃から、私は自分自身が酒の原料であり、失敗を重ねながら、老健施設という新しい革袋のなかで30年醸造されてきたような気がしている。

世間知らずの私は経営にも医療管理にも苦労した。もし、娘に老健施設を譲りたい老医師、若くして老健施設を継承しなければならなくなった若い医師等の目にこの文章が留まるなら、必ず希望になれると信じている。

原材料とレシピ

この酒が何からできているか? 30年間、私が経験したことを羅列してみる。事務長獲得に2回失敗し、事務長を兼務していた時期もあるため、以下のとおり幅広く経験した。

- (1)医療主導の組織づくり feat.警察・「病院事務長研修」・弁護士・社会保険労務士
- (2)水陸のリハビリ修行
- (3)「ケアつき阿波踊り」でケアをし、「寝たきり生活6週間」でケアされる

- (4)小児科外来とバイブル「日本臨床」
- (5)「利用者は終末期であること」の説明と同意
- (6)介護保険開始と、ケアマネジャー合格
- (7)認知症でもおむつでも何度でも在宅復帰なのだ、と気づく
- (8)人手不足と介護職員育成「初任者研修」「ベトナム4人娘」
- (9)「癒し」の研究@「屋上森林セラピーフィールド」
- (10)IT化で「新型コロナに挑戦」し、安全のSDGsを考える
どうやら、10種類くらいの原材料があるようだ。

(1) 医療主導の組織づくり feat.警察・「病院事務長研修」・弁護士・社会保険労務士

事故は突然やってくる。開業早々、「入浴中の利用者が溺水しそうなのに職員が気づいていなかった」という事故が起き、施設長の仕事はリスク管理から始まった。

激怒しているご家族は当然「職員の方は何をしていたのですか!」「早く見つけてくれていたのですか?」と言う。発見時、我々の組織はどんな行動をしていたか?発見時のご利用者の病態はどうだったか?この2つを医師として正確に説明することが、施設長の管理責任だ。誠実に医療を行うだけでは「管理責任」は果たせない!

1991年、現場で最初につくったのは「事故急変報告書」だった。①どんな事故急変でも24時間以内に報告書を作成して施設長まで報告する②職員への個人攻撃はせず、職員はありのままを(そのとき、他の職員は何をしていたか?まで)記録する③反省しているうちに「次にはこうする」というプランを明記する。

「失敗から学ぶこと」「看護と介護は垣根なくおむ